

<今回>272回目 2019年12月23日(月)15時~18時 603号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p125 8行目 奄に父兄を喪う より

<前回>271回目(19-12-9) 出席者 9名

資料(19-12-9-1)前回のまとめ(清水)

A 報告 高山氏の先日の大嘗祭の報告の清水の文章を訂正された。主の建物は由紀殿であり、千木は水平切、主基殿は垂直切、鯉木は2本一組で5組、両方同じ。天皇は由紀殿から最初に参拝した。

榛葉氏より戸塚お結び広場(区庁舎内)の広報活動の報告をしてもらった。10回目で初めて参加。11月27日午後から12月1日4時までの先行展示。活動の主体はお茶や書道など会員獲得のための宣伝活動が主体だから、異色だったが、来場者に古田史学の一端を説明して理解を深めた。メモに5日間で142名。来年から東戸塚の講座の講師の一員として参加予定の大越氏が資料作成、講師4人と事務局4人の女性が詰めて対応に当たった。「卑弥呼は何処にいたか」と大書して興味を引いた。総来場者は12月1日の日曜日は3千人という。大墨氏から東戸塚講座の終了に際してアンケート調査をし、35名受講者の内23名提出。概ね理解が得られたという報告があった。来年は5月から12月まで、月2回(火曜日)、計16回、50名規模で募集をかける。

懇親会8名 津多屋18755円(2200・7+2000) -1355円

C 読書 p111 注 反切は角川文庫では省略されていたので読み飛ばしていた。改めて勉強しなおした。p65では臺の読みについて、堂来の反切と書いてある。dou+raiの音からダイと音する。音読法則である。第1字の子音と第2字の母音の組み合わせで読み方の分からない漢文の読者に読み方を示している。はじめは反だけだったが謀反につながるとして、後に切の文字になったが、両者組み合わせで反切(はんせつ)となった。

読書の前にまとめで、大墨氏より、倭王武の在位、即位年について、その後の古田説では本紀の昇明元年(477年)倭王通行の記事があり、倭王武は昇明2年(478年)の上表文の前に即位していたことが解るとした。

p116 4行目より読書。

1)江戸から明治、大正、昭和と日本の古代史学者は古田説の指摘を見ればいかに幼稚な議論を展開してきたかが分かるが、これを古田武彦が指摘した方法でその幼稚さを指摘しなければならないことが今でも続いているのは情けない。日本書紀の在位数、親子兄弟関係の矛盾をお互いに鋭く指摘あい、人名比定については全く法則性がなく、勝手放題である。

2)これは魏志倭人伝をそこだけ読んで、三國志全体の語法から推定する科学的な方法の導入と最古の版本宮内庁保管の紹熙本から原文を一語一字訂正することなく理解できるとした古田説が世に出れば、ばかげた議論を古代史学者はしてきたものだとわかる。

3)邪馬壹国一邪馬台国、会稽東治一会稽東治、景初2年一景初3年、に始まって、陸行1か月を1日、南を東に、安易に原文改定したどころでなく人名比定に至っては、全く幼稚な、法則もない。それでも倭王武=雄略の一点は稲荷山鉄剣で一致している。これを次回では崩そう。

次回日程 20-1-17(金) 15時から18時 601号室

20-1-31(金) 15時から18時 601号室

-2-14(金) 16時から18時 601号室